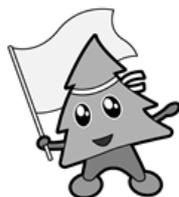


# 平成27年度における読書活動 推進施策について（報告）

－あきたの子どもたちに読書の喜びをリレーしよう－



平成28年6月  
秋田県読書活動推進本部



高質な田舎  
AKITAVISION

## 目 次

I	はじめに	1
II	基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況	2
III	読書活動推進の施策	3
第1	「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化	3
(1)	図書資料の充実	3
(2)	図書資料を活かす人材の確保と配置	5
(3)	情報発信・効率的な利用システムの構築	6
(4)	公立図書館等の開放性	9
第2	県民・民間団体・企業等による読書活動の推進	11
(1)	ボランティア活動を担う人材養成	11
(2)	ボランティア活動への支援	11
(3)	活動団体等のネットワークづくり	12
(4)	企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携	12
第3	読書をしやすい環境づくり	14
(1)	行政の取組	14
(2)	学校等での取組	18
(3)	家庭での取組	18
(4)	職場での取組	19
(5)	各民間団体等を通じた読書の普及・啓発	19
第4	読書に関する県民運動の推進	20
(1)	読書の楽しみ	20
(2)	図書資料の確保・充実	21
(3)	いつでもどこでも読書	22
IV	読書活動を推進する体制	23
(1)	「秋田県読書活動推進本部」の設置	23
(2)	県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実	24
(3)	読書に関する調査の実施	24
(4)	読書活動推進関係者との意見交換会の開催	25
(5)	「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設	25
(6)	「市町村子ども読書活動推進計画」策定への支援	25
V	「達成すべき目標数値」平成27年度実績	26

## I はじめに

読書活動は、県民が人生を豊かに生きる上で大切なものであり、文化的で豊かな社会の構築にも寄与することから、県では、「秋田県民の読書活動の推進に関する条例」（以下「条例」という。）を制定し、平成22年4月1日から施行している。

また、平成23年3月に、条例に基づき、「秋田県読書活動推進基本計画」（以下「基本計画」という。）を策定し、読書活動の推進に関する施策を総合的・計画的に進めてきている。

本報告は、条例第4条第2項に基づき、平成27年度に基本計画により実施した施策を議会に報告するため、その概要を取りまとめたものである。

### ○ 秋田県民の読書活動の推進に関する条例【抜粋】

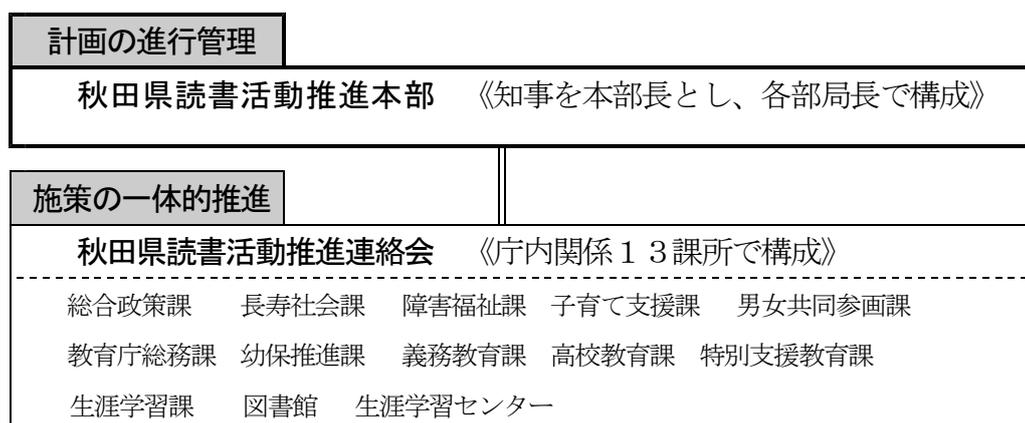
（県民読書活動推進基本計画）

第四条 県は、県民の読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、県民の読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「基本計画」という。）を策定するものとする。

2 県は、毎年、基本計画により実施した施策を議会に報告するものとする。

3 県は、必要があると認めるときは、基本計画を変更するものとする。

### 《 読書活動推進体制 》



#### ◆ 表紙写真

【上・左】 図書館に展示されたハッピー読書貸出パック〔プロスポーツ連携〕

【上・右】 幼稚園・保育所・認定子ども園 新規採用者研修

【下・左】 学校図書館で展示された本を手にする子どもたち

【下・右】 子どもたちとの出会いを待つ「スグッチリサイクル文庫」

## II 基本計画の推進に当たっての方向性と事業推進状況

読書は、人生を心豊かで潤いのあるものにしてくれる大変有意義な活動である。人は読書を通して、心を癒されたり、あるいは勇気付けられたりと、実に様々なことを体験している。本の中では、全く別の人生を生きることも可能となるほか、一冊の本との出会いが人生の転機となるという場合さえある。

こうした読書の優れた側面に照らしたとき、今後の社会をより豊かなものにしていく上では、誰もが生涯を通じて読書に親しむことのできる環境を作り上げ、また気運を盛り上げていくことが非常に重要となる。

県では、県民総ぐるみで読書活動を推進していくため、県民一人ひとりが子どもの頃から読書に親しむ習慣を身に付け、様々な場面で本に接する機会が確保されるよう各種施策を進めていくことにしているが、基本計画の冒頭において、その推進に係る四つの基本的方向を次のとおり定めている。

- 1 県民のライフステージや環境に応じて、読書に親しむ環境を整える。
- 2 勉学、仕事、余暇活動など生活の様々な場面で、気軽に読書することができる環境を整える。
- 3 読書活動を通して、地域のコミュニティの形成を図り、地域の絆を深める。
- 4 読書活動は習慣付けが重要であることから、特に子どもの読書活動を積極的に推進する。

### 平成27年度推進状況

秋田県を舞台にした小説・随筆・紀行文を募集する「ふるさと秋田文学賞」の第2回作品募集や受賞作品集刊行、ミニのぼり旗等の配布を通して、「県民読書の日」（11月1日）の周知を行い、読書活動に関する県民の意識向上を図った。

県民協働の読書環境づくりとして、リサイクル文庫事業を進め、平成23～27年度までの5年間で、家庭で眠っていた約14,000冊の絵本が「スギッチリサイクル文庫」としてよみがえり、子どもたちが身近に本に親しめる環境づくりにつなげた。

企業との連携事業では、「ハピネッツとハッピー読書」「ブラウブリッツ秋田とエンジョイ読書」として、試合会場に設置した読書コーナーで選手お薦めの本の紹介や「家族で読書」パンフレット配布など、



プロスポーツと連携した読書活動により、県民の読書意欲の喚起を行った。

また、県民に身近な市町村立図書館や学校図書館のブラッシュアップ支援を行う県立図書館「打って出る図書館」の「ビフォー・アフター研修」や、小・中学生の「子ども司書」養成、競技感覚で本の魅力にスポットを当てる「ビブリオバトル（書評合戦）」は、初めて全県高校生大会を開催し、若者を対象とした読書推進の機運を醸成した。

さらに、市町村との協働による読書活動推進体制の強化に向けて意見交換会を開催し、取組事例や課題の共有を図り、地域読書推進に向け連携していくことを申し合わせた。



第1次基本計画（平成23～27年度）では、図書の実質や読書活動推進本部の設置、子ども読書活動推進計画の全市町村策定などにより推進体制が整備され、県民の読書活動の土台づくりを進めてきた。

平成27年度は計画最終年度として、第1次基本計画の成果と課題を検証しながら、新たな視点で第2次基本計画（平成28～32年度）の策定作業を行い、「家庭」「学校」「職場」「地域」という県民の生活の場に根付いた読書活動を通し、これからの地方創生を担う人づくりにつなげることを目指して、県民の共感を高めながら、県民総ぐるみで推進することとしている。

### Ⅲ 読書活動推進の施策

#### 第1 「県民が読みたい本を選択する場」や「本に親しむ活動の情報発信の拠点」機能の強化

##### （1）図書資料の充実

県民が読みたい本を選択できるようにするためには、図書館を始めとした各施設の図書資料の充実、読みたい本にたどり着けるような環境づくりが必要となる。また、低年齢期には読書の習慣を身に付けるきっかけとなる本と出会うことなどが大切であることから、以下のような取組を行った。

○ 公立図書館等における図書資料の充実促進を図るため、県図書館協会が実施している出前研修等各種研修会や市町村立図書館巡回訪問において、資料選定に関する助言・指導を行った。

- ・研修会開催数 35回
- ・訪問図書館・図書室数 128館

○ 幼稚園・保育所、児童館の図書室の図書資料の充実を図るため、県民に絵本などの寄贈を呼びかけ、それを希望する公共施設等に配付、再活用する「スグッチリサイクル文庫」事業を実施し、134名2,418冊の寄贈を受け、大森山動物園や企業等49か所に絵本等の配付を行った。

## ❖ 「スグッチリサイクル文庫」の流れ

本の回収に当たっては、市町村立図書館に届けられた本を県立図書館の巡回車を使って回収する県・市町村立図書館の連携ルートを活用している。



## ❖ 「スグッチリサイクル文庫」の配付状況（H23～27年度）

配付施設等	箇所数
保育所・幼稚園	193
児童館・児童クラブ	138
病院等	138
児童福祉・子育て支援	26
企業	38
その他	30
計	563

○家庭で眠っていた約14,000冊(5年間累計)の絵本が、スグッチリサイクル文庫としてよみがえりました。

### スグッチリサイクル文庫利用者の声

園にあった絵本はページが無かったり、破れていたり、テープでの修繕だらけだったり…「ここ、ビリビリしてる～」と言っていた子どもたち。新品同様のきれいな本にピカピカの表情を見せてくれ、大喜びでした。(県内保育園)

## ❖平成27年度図書寄贈状況

寄贈者数	134人
図書数	2,418冊

○ 親子の心のふれあいを通じて、子どもの健やかな育ちを促すため、親と子が最も親密な関係にある乳幼児期からの絵本の読み聞かせの普及を進めるため、0歳児から小学校低学年までを対象とする推薦図書等を紹介した「2016 マザーズタッチ文庫」ウェブブックを作成し、子育て支援課公式ウェブサイト『いっしょにねっと。』に掲載したほか、リーフレットを作成し、幼稚園、保育園等に配付した。

○ 高齢者の読書環境の充実を図るため、高齢者が読みやすい大活字本や音声図書資料(CD)を県立図書館に整備した。

・大活字本購入 122冊 ・視聴覚資料整備 383点

○ 障害者の読書環境の充実については、県点字図書館において点訳図書や音訳図書（テープ）、デージー図書\*等の制作を行ったほか、こうした図書の貸出を通して視覚障害者への図書提供サービスの向上に努めた。

- ・ 図書制作～点訳図書：128タイトル、音訳図書：0タイトル、  
デージー図書：123タイトル
- ・ 図書貸出～点訳図書：552タイトル、音訳図書：653タイトル  
デージー図書：6,194タイトル  
定期刊行物：10,816タイトル

※ デージー図書：DAISY (Digital Accessible Information System) という規格を用いたCDにデジタル録音した図書。従来のカセットテープとは異なり、目次から読みたいページに飛んだり、繰り返し聞いても音質が悪くならない等の利点がある。

## (2) 図書資料を活かす人材の確保と配置

読書活動を推進するためには、図書資料というハード面での整備に加え、その図書資料を活用する上での人材面でのサポート体制も同時に整えていくことが重要となる。そのため、図書館の利用者に適切にサービスを提供できるよう専門的職員の能力向上に努めたほか、読み聞かせやおはなし会などのボランティア活動を行う人材の育成を図った。

○ 「市町村子ども読書活動推進計画」策定に向けた助言をする中で、市町村立図書館への専門職員の配置について奨励したほか、高等学校については、各種研修の機会に、図書館便りの発行や図書紹介などの活動を図書委員会を中心に促進するよう指導した。

- ・ 市町村子ども読書活動推進計画 策定済市町村数 25市町村

○ 図書館関係職員の能力向上の機会を提供するため、県図書館協会の出前研修等の制度を活用し、市町村立図書館や学校図書館の運営に関する研修会を実施したほか、読み聞かせ等の研修会に講師を派遣し、ボランティア等の人材育成を図った。また、「打って出る図書館」の取組により、市町村立図書館等が、地域の実情に応じて、ボランティアに研修を行ったり、新たなボランティア参加者を募ったりできるようサポートした。

- ・ 研修実施回数 35回
- ・ 講師派遣回数 17回

- 学校図書館における図書資料の活用充実を図るため、学校図書館法施行令により、司書教諭を置かないことができる」とされている学級数11以下の小・中学校への司書教諭の活用について学校訪問時等において指導したほか、高校等においても同様に司書教諭の配置を進めた。そのほか、各学校において図書館利用の手引きとなる運営マニュアル等の整備、授業等での図書館の活用計画の策定、優れた実践事例の紹介等、学校図書館の利用促進について学校訪問時等において指導に努めた。

## ❖ 「打って出る図書館」の取組

### <平成27年度形態別訪問回数>

	[巡回訪問] 全市町村立図書館・図書室	[運営課題解決サポート] 市町村の求めに応じて	[研修等のサポート] 市町村の求めに応じて	計
県北	44	1	8	53
県央	40	0	13	53
県南	44	2	14	60
全県	128	3	35	166

### <「打って出る図書館」による情報提供とその活用例>

例	市町村訪問時に行った情報提供など	その後の市町村立図書館等の対応・活動の変化
1	館内のレイアウト改善や新規コーナーの設置を助言	課題解決のための「子育てコーナー」や「teens'コーナー」、「地域活性化コーナー」を新設した。
2	新館建築や移転に伴うレイアウト等について助言	助言の内容を活かして移転開館したり、新館建築の準備を進めたりしている。
3	市町村立図書館が主催した学校図書館担当職員のための研修会に講師を派遣	学校図書館関係者と市町村立図書館職員の共同参加による研修を実施することで双方に緊密な関係ができた。

### (3) 情報発信・効率的な利用システムの構築

各図書館等が互いに十分に連携し、読書に関する情報を効率的に発信する等、利用者にとって利便性の高い施設となるよう、情報発信機能等の強化を図り図書館の利用増に努めた。

#### ① 県立図書館の取組

- 県民の課題解決の手助けとなる、参考資料（レファレンスブック）、郷土資料、キャリア教育用資料等を充実させ、その活用を図った。

- 観光情報、ビジネス支援、子育て情報、健康情報、生活支援、地方創生などの各コーナーの資料の充実を図るとともに、季節や時事に対応したテーマ展示を開催することにより、県民の利用機会の拡大と利便性の向上を図った。



- 各機関・団体等と連携した企画展等の充実を図った。
- ・博物館や近代美術館、埋蔵文化財センター等と連携した企画展示（6回）、セミナー（1回）、ギャラリートーク（8回）の実施
  - ・震災復興コンサートの開催（1回）
  - ・県民によるプロムナードコンサートの開催（9回）
  - ・放送大学との連携セミナーの開催（2回）
  - ・大学図書館への資料提供（貸出冊数 401冊 借受 43冊）
- 県立図書館のホームページやブログにおいて図書館主催事業等の情報を提供するとともに、生涯学習支援システムにおいても読書関連情報を提供したほか、生涯学習センター主催のセミナー関連資料の展示を県立図書館内で行うなど、相互に連携して啓発広報の充実に努めた。
- ・生涯学習支援システムによる読書や文学関係情報提供数 333件
  - ・平成27年度Webサイトトップページへのアクセス数 50,606件
- 入館者数は421,547人で、平成26年度を16,561人下回り、3.8%減となった。入館者数の減少に反して、貸出冊数は432,610冊と前年度を15,397冊上回り、3.7%の増となった。平成26年度から実施している課題解決支援各コーナー資料の重点購入が要因の一つとして考えられる。今後も資料の充実、排架の工夫や関連イベントの実施等を通じて利用増を目指している。
- 県立図書館のレファレンス・サービス<sup>\*</sup>については、図書館ホームページの充実やデジタルアーカイブの公開等、利用者への情報提供の充実が進んでいる。簡易な所蔵確認や文献調査等は利用者自身で速やかに確認ができるようになってきている

こともあり、平成27年度のレファレンス・サービス件数は28,309件となり、前年度を3,039件上回り、12.0%増となった。今後もレファレンス・サービスの充実を図り、利用者に広く認知・活用されるよう努めていく。

※ レファレンス・サービス：図書館利用者が学習・研究・調査を目的として必要な情報・資料などを求めた際、情報そのものあるいはそのために必要とされる資料を、検索・提供・回答することによってこれを助ける業務。

## ② 市町村立図書館等の取組と支援

- 市町村立図書館等の取組を支援するため、県立図書館による市町村立図書館等への業務支援・情報提供のための巡回訪問を実施したほか、図書館運営や資料収集・整理の仕方などについて見直しを行う特別支援事業を行った。なお、横手市においては、新図書館開館に向けた全般的なアドバイスを行った。

- ・ 特別支援館数      3館（回数3回）

- 相互貸借サービスの充実に向けた取組として、県立図書館から市町村立図書館等に対し資料の貸出を行った。

- ・ 市町村立図書館等への巡回訪問                      128館
- ・ 市町村立図書館等への資料貸出                      23,747冊

## ③ 学校図書館の取組と支援

- 学校図書館の取組支援については、小・中学校において「司書教諭の手引き」の活用を促すとともに、小・中学校及び特別支援学校への学校訪問時に公立図書館等と連携した活動の促進について指導したほか、学校図書館が読書センター及び学習・情報センターとして機能するよう、授業において学校図書館と図書資料等を積極的に活用することについて「学校教育の指針」（平成27年度の重点）に示し、指導を強化した。

また、生徒による図書委員会活動の優れた実践事例を学校訪問や各種研修の際に紹介するなど、学校図書館活動に関する情報提供に努めた。

- 公立図書館と学校図書館の連携強化については、市町村立図書館等への巡回訪問時に助言をしているほか、学校図書館を改善するビフォー・アフター研修を開催した。

- ・ 市町村立学校図書館への貸出冊数                      863冊
- ・ ビフォー・アフター研修                                      1校

○ 県立図書館から県内高等学校・特別支援学校等への貸出は、8,874冊と前年度比14.0%の増となった。平成28年度は貸出用セットの追加購入と組替えを重点的に行うほか、高等学校図書館訪問による広報を積極的に行って、利用の促進を図る予定である。

④ 公立図書館の相互利用・連携の推進

○ 県立図書館と市町村立図書館等との資料の相互貸借の効率化を図るため、県内市町村立図書館・大学図書館資料横断検索システムを運用し、図書情報へのアクセス環境の整備を進めている。平成28年3月現在、横断検索システムの参加館は52館10室となっている。

○ 読書活動推進に関する総合ホームページ「あきたブックネット」により、市町村立図書館等の関係機関のホームページとリンクし相互の連携を促進したほか、県内読書関連サークル等の活動状況や「家族で読書」推奨図書の設置図書館の情報等、全県にわたる読書情報を提供した。

・あきたブックネットアクセス件数 908件(H27.4.1~28.3.31)

(4) 公立図書館等の開放性

県民が本を選択する場としての公立図書館等は、県民にとって利用しやすいものでなければならないことから、公立図書館等の運営に積極的に県民の視点を取り入れ、利用者の声に柔軟に対応していけるよう指導に努めた。

○ 公立図書館等を始めとする社会教育施設の積極的な開放や、公立図書館等が利用しやすい施設となるための分かりやすい案内表示やサイン等の整備について、県立図書館が市町村立図書館等へ巡回訪問した際に助言したほか、図書館の環境改善を図る研修を実施した。

○ 小中学校の図書館の地域への開放の現状について聞き取りをするとともに、実情に応じて助言したほか、高校の図書館についても、学校訪問や各種研修等の際に、学校図書館と地域社会の連携促進について指導した。

## ❖県立図書館の県内図書館支援の取組

### 市町村図書館等への支援



専門的な知識を持つ司書職員による巡回訪問で図書館運営に関する助言や情報提供を行うほか、市町村図書館職員や地域のボランティアを対象とした研修を行っている。

### 高校図書館への支援



高校図書館向け図書セット貸出や図書委員会の生徒を対象とした研修会の開催、司書職員による学校図書館訪問で運営への助言等を行っている。

### 小中学校図書館への支援



市町村図書館を経由した図書の貸出や、学校図書館関係者を対象とした図書館改善のための研修会開催、講師派遣等を行っている。

## 第2 県民・民間団体・企業等による読書活動の推進

### (1) ボランティア活動を担う人材養成

学校や各種施設における読み聞かせ活動やおはなし会の開催は県民に読書と接する貴重な機会を提供している。県民に読書を広めていく上で、地域のボランティアによる活動は重要な役割を果たしているほか、図書館で活動するボランティアは、図書館における多様なサービスの一翼も担っている。そのため、読書関連のサークル等ボランティア活動を担う人材を養成することを目的に次のような事業を行った。

○ 「打って出る図書館」が、市町村立図書館等が主催するボランティア研修会で講義を行うとともに、市町村立図書館等に対しボランティア育成の助言を行った。

また、県立図書館で、子ども読書支援センターボランティア（支援員）による読み聞かせ（おはなしタイム）・読書相談を行った。

- ・市町村主催読書活動ボランティア向け研修会回数 5回
- ・おはなしタイム開催回数及び参加人数 22回（580人）
- ・読書相談件数 140件（57回開催）

○ 県立図書館に登録したボランティアが、児童等への読み聞かせや県立図書館内で活動を行った。

- ・閲覧室書架整理 64回
- ・図書の修理 6回

### (2) ボランティア活動への支援

ボランティア団体の活動が活発になるよう、その自主性を尊重しながら、活動の基盤を促進するため、次の事業を行った。

○ 公立図書館等が民間団体の活動へ助言できるよう、県立図書館が市町村立図書館等を巡回訪問した際に助言、情報提供を行っているほか、県立図書館においては、民間団体によるセミナーの開催を支援した。

○ 秋田県読書活動推進本部ホームページ「あきたブックネット」に、助成事業として、国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」や伊藤忠記念財団が行う「子ども文庫助成事業」を掲載し、周知することによりボランティア活動への支援を行った。

○ 県立図書館や県子ども読書支援センターにおいて、読み聞かせに使用する大型絵本や紙芝居、それに使用する舞台等の貸出を行い、ボランティア活動への支援を行った。

#### ❖貸出状況

貸出先	冊数
幼稚園・学校	716
ボランティア団体	374
市町村図書館等	772
学童クラブ等	914
計	2,776

- ヤングアダルト層（青少年）の読書意識の向上を図るため、県立図書館のティーンズコーナーを充実させた。また、市町村立図書館に対し、ティーンズコーナーや健康・子育て、シニア（高齢者）、ビジネス起業、自殺予防など地域課題解決のためのサービス実施を助言し、全県の76%の図書館がコーナー設置等を行った。

#### （3）活動団体等のネットワークづくり

読書関連サークル等民間団体は、他の団体と交流・情報交換することで、活動が活性化したり、新たな視点での活動が展開されるため、県内の活動団体のネットワークの構築に向けて、次の事業を行った。

- 市町村立図書館の読み聞かせボランティアを中心とした読み聞かせグループの活動状況調査に基づき、「あきたブックネット」で情報提供するとともに、交流の機会を設け、ネットワークの構築を図った。

#### （4）企業の地域貢献活動としての読書支援の啓発と連携

読書活動は、企業にとっても事業展開のヒントを提供してくれるものであり、また、従業員の福利厚生として重要な役割を担うことが期待されている。書店、出版社、新聞社等の読書関連企業は、県民読書活動の推進にとって大きな役割を果たしていることから、こうした企業と連携して県民への啓発活動に努めた。

- 県立図書館閲覧室内のビジネス支援コーナーを充実させるとともに、市町村立図書館への設置の働きかけを行った。また、雑誌スポンサー制度も継続実施により、「SPONSORS' ビジネスカフェ」の開催を通して、スポンサー同士の交流の機会も提供した。

○ 県民への読書啓発のため、県と県教育委員会は「県民読書の日」を含む11日間を「秋田県読書フェスタ」（平成27年10月24日～11月3日）と定め、関係機関、ボランティアと連携して社会教育施設等で読書イベントを集中的に開催した。

また、市町村教育委員会にも参加を呼びかけたところ、全市町村で読書イベントが開催されることになった。「秋田県読書フェスタ」のイベントをまとめたパンフレット8,000枚を県内各図書館、書店、県立学校等に配付するとともに、ホームページにも掲載し、フェスタ終了後には、フェスタの内容やイベントの様子を「読書活動だより」等で広報した。

- ・参加市町村            25市町村（昨年度22市町村）
- ・参加団体等            2団体（書店商業組合、仲小路商店街）
- ・開催図書館等        72か所（昨年度50か所）

○ スイミングスクール、動物園、子どものえき等に「スギッチリサイクル文庫」の設置を進めた。さらに、プロバスケットボールチームの「秋田ノーザンハピネッツ」とプロサッカーチームの「ブラウブリッツ秋田」の選手によるお薦めの一冊のパンフレット等を作成・提供することにより、学校訪問等の社会貢献活動に対し、児童・生徒に配布する読書推進リーフレットやノベルティを提供し、読書推進啓発活動を支援した。

- ・「スギッチリサイクル文庫」設置数                    49か所
- ・パンフレット配布数（2チーム合計）            20,336部
 

試合会場～	6,984部	}
学校訪問～	2,371部	
学校送付～	821部（小・中・高・特支）	
全県小学6年生～	9,000部	
書店～	1,160部	

### 第3 読書をしやすい環境づくり

読書活動の公益的な意義や効果を明確にしなが、その活動を促進していくため、行政、教育機関、民間団体、企業等と役割を分担し、一体的に読書活動を推進する気運の醸成に努めた。

#### (1) 行政の取組

- 11月1日を「県民読書の日」と制定し、制定記念事業として県児童会館けやきシアターにおいて「読書のつどい2015秋」を開催し、講演会や書籍展示・販売を行った。また、ホームページ等を使って講演内容等を広く情報発信して、読書に親しむ機運の醸成を図った。

参加者数 塩野米松氏講演会『聞くことから始まる』 130名

- 「県民読書の日」の周知を図るため、ポスター、卓上ミニのぼり旗、ポップ、リーフレット等を作成して県内図書館等、書店、小・中・高校・大学等へ配付した。

**●塩野米松氏講演会 「聞くことから始まる」**

秋田県仙北市（旧角館町）御出身の塩野米松先生による講演会が開催されました。「聞くことから始まる」と題された講演では、「聞き書き」を通して、人と会話をする事の大切さや奥深さについて、多くの貴重なお話を聞くことができました。



塩野米松先生の御講演



サイン会の様子

参加者の方々からは、「会話することの大切さや姿勢など、普段忘れがちになってしまう基本的な部分を思い出すことができ、大変参考になった」「聞き書きの魅力伝える言葉があふれていて、新しい世界に触れることができた」「学ぶことの意味は、多くの人の人生を知ること…シンプルで深く重いものだ」と改めて感じた」「“聞き書き”から、今日の生き方や将来の生き方を導き出すことができる。読書でも同じことができるのではないかと感じ、読書をこれからも続けたいと思った」などの御意見や御感想をいただきました。

(「あきたブックネット」より)

- 読書活動への関心を高める取組として、様々な媒体を活用した県内関連事業の情報提供を行い、広く浸透を図った。
  - ・ 広報広聴課広報事業を活用した読書イベント等の広報、マスコミへの情報提供
  - ・ あきたブックネットによるタイムリーな読書情報の提供  
(あきたゆかりの著名人による「おすすめの一冊」の紹介(累計28名28冊)、読書クイズの掲載、県内読書ボランティア団体の紹介)
  - ・ 県青少年健全育成審議会で推奨された「優良図書」(累計14冊)紹介 など

❖「おすすめの一冊」の例



日経B P ヒット総合研究長

麓 幸子さん（大館市出身）

## 自分の「ものさし」で生きなさい

○日経B P 社

○酒井雄哉・村木厚子著



－この本を選んだ理由は？－

現在の生き仏と言われた天台宗の高僧であった酒井阿闍梨と、人生の大きな試練を乗り越えられた村木厚子さんの対談集。「女性たちは輝いている。この世を照らすのは女性たち。だから自信をもって自分の本線を歩みなさい。」酒井阿闍梨の唯一で最後の女性たちに対する珠玉のメッセージ、そして働く女性のロールモデルである村木さんの経験に基づいた温かいエールがあります。人生に悩む人すべてに読んでいただきたいです。あなたの人生のバイブル、“伴走者”となる一冊です。

（「あきたブックネット」より）

- 「市町村子ども読書活動推進計画」の策定に関する情報を収集し、必要に応じて資料を提供した。また、2次計画の策定に向けて市町村訪問等により助言を行った。なお、策定状況については、読書活動日より『むすぶ』により広報している。  
・市町村子ども読書活動推進計画 策定済市町村数 25市町村
- 文部科学省は、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高める活動において、特色ある優れた実践を行っている学校、図書館及び団体（個人）に対し、その実践を称え表彰を行っている。
- 県生涯学習センターが生涯学習講座として実施し、学習状況に応じて単位認定を行っている「あきたスマートカレッジ」において、文学関係の講座（17件）を実施した。
- 平成24年10月19日から、県立図書館において電子書籍の提供を開始しており、平成28年3月末現在4,906点を提供している。  
（平成28年度も新規資料を購入予定）

## ❖平成27年度

### 子どもの読書活動優秀実践図書館・団体 文部科学大臣表彰

被表彰者【3学校・1図書館・1個人】

#### ❖小坂町立小坂小学校

##### 【読書活動の充実】

日課表に全校読書の時間「読書タイム」を位置付けているほか、月2回、30分間の「たっぷり読書の日」を設定している。また、地域のボランティアによる読み聞かせ会も実施している。

##### 【児童による委員会活動の充実】

高学年児童が下級生や町内の保育園児に読み聞かせを行っている。また、お薦め本を選定し、集会や図書便りで紹介している。

##### 【授業における活用】

国語科を中心に、読書の幅を広げ多様な読み物に触れさせる指導を行っている。司書教諭と、町が配置している図書支援員の連携により、授業で使用する資料を学校図書館だけでなく、町立図書館や県立図書館からも準備し、調べ学習を充実させている。



#### ❖にかほ市立仁賀保中学校

##### 【読書時間の確保】

朝読書の時間を日課表に示し、生徒と共に教師も読書をしている。

##### 【展示やコーナー設置による環境整備】

季節や行事に応じた掲示、様々なテーマ展示、特設コーナーの設置と関連クイズの出題、保健室と連携した「心のケアコーナー」の設置等により、読書への関心を高めている。

##### 【学級文庫の設置と読破奨励】

ほぼ1か月ごとに入替を行う学級文庫を設置するとともに、必読図書を3年間で読破するように奨励している。

##### 【生徒会による読書活動】

図書委員たちによる、読書集会の開催や読み聞かせ、「図書新聞」の発行などを行っている。また、先生の薦める本の紹介コーナーも設置している。

##### 【市イントラネット検索機能システムの活用】

市内小・中学校と市公共図書館の蔵書を検索することで、調べ学習等における資料の相互貸借が可能である。また、このシステムにより蔵書管理や生徒の図書館利用の状況を常時把握している。



## ❖ 秋田県立秋田北高等学校

### 【大学生と連携した読書推進行事】

平成20年度から22年度まで、図書委員会が主催し、大学生を講師として学校図書館に招き、読書体験を語る講話会を開催した。「学びのための読書もある」ということを知り、大学生が紹介する本を展示することで、生徒の読書推進につながった。

### 【学校図書館の地域開放】

平成26年4月より、地域住民に学校図書館を開放している。図書だよりも配布し、生徒だけでなく、幅広い年齢層の読書活動を支援している。

### 【課題研究活動の支援】

2年生の課題研究活動の際、学校司書との連携でレファレンス体制を整えるほか、公共図書館と連携して資料の充実を図っている。

## ❖ 潟上市図書館

平成25年度から始めたkatato事業においては、幼稚園・保育園、小・中学校専用の貸出図書を準備し、読書環境の整備に努めている。学校図書館サポーターと子どもの読書の実態を共通理解しながら選書や事業計画を進め、地域の実情に応じた読書活動の推進に尽力している。

「私がおすすめしたい本」事業は、約2,000名の市民から紹介したい本を推薦してもらい、そのうち約90冊分の紹介カードを大型ポスターにして配付するものである。本年度12年目となり、市内の教育施設だけでなく全県の図書館等にも配付され、長きにわたり子どもの読書活動の推進に寄与している。

## ❖ 土倉泰子 氏（由利本荘市）

読み聞かせボランティア団体の一員あるいは個人として、児童館や学校での読み聞かせやおはなし会を行っている。また、長年にわたって布絵本の制作を手がけており、市の生涯学習展や県内各地の図書館等での展示、制作講座の実施、盲学校への寄贈を行っている。

障害の有無にかかわらず、全ての子どもたちが布絵本の優しさに触れることを通して、絵本を読むきっかけづくりとなるように講演会や研修会の講師を務めている。

さらに、1992（平成4）年から18年間、自宅の一室に絵本や読み物数千点を納めた家庭文庫「絵本のおへや」を開設し、地域に広く開放して、数多くの親子に絵本と読書に親しむ機会と環境を提供してきた。

また、閉室の際、約3,000冊の絵本を市立図書館に寄贈したことにより、現在も「土倉文庫」として地域の親子に活用されている。



## (2) 学校等での取組

- 子どもたちに読書の習慣を付けさせるためには学校での取組が欠かせないため、読書に親しむ時間の確保と充実、全校一斉の読書活動の継続的な実施、計画的で体系的な図書館の利用指導、学校の図書委員会活動の活性化等について指導主事の学校訪問や教育関係者の各種研修会等を通して指導するなど、取組の強化を図った。

なお、指導の際は、指導計画の作成状況や時間の確保等の状況について聞き取り等により把握するとともに、優れた実践事例を紹介するなど、実情に応じた指導を行っている。

- 乳幼児が本に親しむことができるよう、各幼稚園・保育所・認定子ども園等の訪問指導において、保育者に対して読み聞かせを推奨するとともに、読み聞かせの方法や図書コーナーのあり方について、適宜指導・助言を行った。

また、新規採用者研修において、読書及び読み聞かせに関する研修を実施した。

- ・新規採用者研修※（対象87人）

※新規採用者研修：読み聞かせの方法についての研修と園での読み聞かせの推奨

グループかぜ主宰の谷京子氏を講師とし、子どもに読み聞かせたい絵本の紹介や、子どもの心に寄り添う読み聞かせのポイントについて指導・助言をいただいた。

また、県立図書館、秋田県子ども読書支援センターより、読み聞かせや年齢ごとの選書についての読書相談や、幼稚園・保育所・認定子ども園での読書活動支援、大型絵本やパネルシアター等の団体貸出について紹介していただいた。

- 県立図書館等のセカンドスクールの利用※を促進し、児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応できる能力の育成をサポートした。

また、セカンドスクール用プログラムの充実を図るとともに、県立図書館による市町村巡回でセカンドスクール用プログラムへの助言を行った。

- ・セカンドスクール受入学校数 44校(260人)

※セカンドスクールの利用：児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験や社会体験・共同生活体験等を行い、教科学習として授業時数にカウントできる学習形態。

## (3) 家庭での取組

- 家族と一緒に本を読んだ楽しい経験や時間の記憶を持たせることにより、子どもの頃からの読書習慣の定着を図っていくため、家庭において読書がより身近にある生活環境をつくっていく「家族で読書」運動を進めた。

- ・『はじめよう！家族で読書ーおすすめ50選ー』を県内全小学1年生に配付

- 親と子どもが心のふれあいを深め、子どもの情感を大切に育むため、0歳から小学校低学年を対象とした読み聞かせ絵本を紹介する「マザーズタッチ文庫」絵本52冊を選定し、あきた子育て情報「いっしょにねっと。」で公開したほか、毎週日曜日の秋田魁新報読書欄「マザーズタッチ文庫」で、読み聞かせポイント「お父さん、お母さんへの内緒話」を加え、絵本を更に詳しく紹介した。

#### (4) 職場での取組

- プロスポーツ選手に読書活動を奨励し、読書活動推進の担い手としての意識醸成を図った。



(「ブラウブリッツ秋田公式ホームページ」より)

#### (5) 各民間団体等を通じた読書の普及・啓発

- 地域読書ボランティア育成事業として、読書ボランティアグループを対象とした研修会や絵本作家による読み聞かせイベントを県内4会場で実施した。(計356名参加)
- 「読書のつどい2015秋」において、県書店商業組合が関連図書の展示・販売を実施した。
- 高齢者に対する読書の普及・啓発のため、「秋田LL大学園」において読書に関する講座を実施した。
  - ・講座参加者数 60人

## 第4 読書に関する県民運動の推進

県民全体で読書活動を推進していくためには、県民が気軽に読書活動の推進に参加できるメニューを掲げ、読書に関する県民運動を展開していくことが重要であることから、次の事業を行い、読書活動の推進のための気運の醸成を図った。

### (1) 読書の楽しみ

○ 読書の意義や有用性について啓発し、県民の読書活動に関する意識を喚起するため、講演会等を開催した。

#### ・「読書のつどい2015秋」

平成27年11月1日(日) 県児童会館けやきシアター(参加者130人)

□ 講演「聞くことから始まる」 作家 塩野米松氏

#### ・「家族で読書」推奨研修会

平成27年10月28日(水) 秋田県社会福祉会館(参加者約30人)

□ 講話「子どもと絵本について」 県子ども読書支援センター 田丸美穂氏

○ 秋田にちなんだ小説・随筆・紀行文を募集する「ふるさと秋田文学賞」第2回作品募集と入賞作品集刊行を行った。

・作品応募数 93編(県内61編・県外32編)

・入賞作品 最優秀賞 随筆『横手盆地で農を継ぐ』(鈴木利良/横手市)

優秀賞 小説『みちのく鬼譚』(森川瑠美子/横浜市)

小説『いつか、夏が終わる前に』(渡部麻実/横浜市)

### ●「第2回ふるさと秋田文学賞」表彰式



最優秀賞 鈴木利良さん



優秀賞 森川瑠美子さん

第2回となる今年度の「ふるさと秋田文学賞」は、全国から93編の応募があり、選考の結果、最優秀賞には横手市の鈴木利良さんの随筆『横手盆地で農を継ぐ』、優秀賞には横浜市の森川瑠美子さんの小説『みちのく鬼譚』と、同じく横浜市の渡部麻実さんの小説『いつか、夏が終わる前に』が選ばれました。選考委員の内館牧子先生、塩野米松先生、西木正明先生による御講評や、創作の心構えについてのアドバイスなどもいただき、充実した表彰式となりました。



選考委員(左から) 西木正明先生  
塩野米松先生  
内館牧子先生

(「あきたブックネット」より)

- 秋田県「読書フェスタ」の開催期間（平成27年10月24日～11月3日）中、全25市町村が開催する読書イベントを掲載したパンフレットを8,000部作成し、県内の図書館、公民館、書店、県立学校等に配付するとともに、ホームページに掲載した。
- 「幼少期からの読書推進フロンティア事業」として実施した読書絵はがきコンクールには、幼児から中学生まで571作品（昨年度337作品）の応募があり、展示や表彰式に多くの親子連れが訪れた。また、「ビブリオバトル\*秋田県高校生大会」を開催した。県立高等学校司書や教員、市町村立図書館職員等と連携し、校内予選を経て地区大会を行い、各地区のチャンプ本と準チャンプ本獲得者10名による第1回全県大会を開いた。優勝者は秋田県代表として全国大会に出場した。



### ◆ビブリオバトル開催状況

#### ◎全県大会

- 初代 チャンプ 富樫紅実（大館国際情報学院高校3年）
- 同 準チャンプ 遠藤 綾（由利工業高校3年）

地区	実施日	参観者	◎チャンプ本	○準チャンプ本
能代	9月12日	48人	◎白ゆき姫殺人事件（湊かなえ・著）	○ハッピーバースデー（青木和雄/吉富多美・著）
大館	10月3日	48人	◎花束のように抱かれてみた（俵万智・著）	○物語のおわり（湊かなえ・著）
秋田	10月4日	64人	◎僕はお父さんを訴えます（友井羊・著）	○古事記物語（鈴木三重吉・著）
美郷	10月4日	25人	◎人の心が読みとれる心理学入門（渋谷昌三・著）	○心を上手に透視する方法（トルステン・ハーフェナー・著）
由利本荘	10月17日	30人	◎働かないアリの意義がある（長谷川英祐・著）	○ぼくは明日、昨日のきみとデートする（七月隆文・著）
全県大会	11月1日	80人	◎物語のおわり（湊かなえ・著）	○ぼくは明日、昨日のきみとデートする（七月隆文・著）

◆地区大会・全県大会参加者数 高校生バトラー延べ43名、参観者延べ295名

※ビブリオバトル：発表者（バトラー）がお薦めの本の魅力を5分間で紹介し合い、聞いていた人たち全員で「一番読みたくなった本」（チャンプ本）を投票で決める知的書評ゲーム。発表者と参観者のコミュニケーションによって本の面白さや魅力を共有し、読書のきっかけづくりにする。

## （2）図書資料の確保・充実

- 「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の選手お薦めの本のセットを市町村立図書館等へ貸し出しする企画展示（6か所）等により、県及び市町村立図書館の個性化を図る取組に支援を行った。
- 三種町橋本五郎文庫の運営に関し助言や資料提供を行った。

### (3) いつでもどこでも読書

○ 読み聞かせボランティア、家庭・地域と連携を図り、「いつでも、どこでも」読書に親しむ環境づくりをするため、次の事業を行った。

・読書ボランティアグループ等を対象にした「読み聞かせフェスタ」「研修会」の開催（参加者計 356人）

□県北地区 平成27年6月23日（火） 大館市立中央公民館

講話・実技指導等 谷 京子氏

□中央地区 平成27年6月16日（火） 県生涯学習センター

講話・実技指導等 谷 京子氏

□県南地区 平成27年6月18日（木） 大仙市大曲交流センター

講話・実技指導等 谷 京子氏

平成27年7月11日（土） 大仙市中仙市民会館ドンパル

絵本ライブ・実技指導等 中川ひろたか氏・村上康成氏

・「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の試合会場に選手お薦めの本を展示し、親子で本にふれあえるコーナーを設置

秋田ノーザンハピネッツ 14試合（入場者数 43,550人）

ブラウブリッツ秋田 12試合（入場者数 22,384人）

・「秋田ノーザンハピネッツ」「ブラウブリッツ秋田」の学校訪問等の社会貢献活動に対し、児童・生徒に配布する読書推進リーフレットやノベルティを提供し活動を支援した。

リーフレット配布数(2社計) 20,336部

・「打って出る図書館」により、市町村立図書館等で開催する研修会への講師派遣、資料の提供を行った。

研修会講師派遣回数 17回

## ❖秋田県子ども読書支援センターの活動から

職員と支援員が県立図書館「えほんのへや」や県内の読書イベント、市町村図書館等で開催される研修会等で活動している。



県立図書館「えほんのへや」で支援員のお薦め本を展示

支援員による読み聞かせや読書相談



県内ボランティアや図書館職員向け研修への講師派遣



## IV 読書活動を推進する体制

読書活動について、学校教育や生涯学習推進の観点からだけではなく、余暇活動、ボランティア活動、高齢者の生きがづくり、障害者福祉などの様々な観点から取り組むため、知事部局と教育庁が連携した体制を整えるとともに、県内の企業や各市町村に対しても読書活動の推進のための取組の強化を働きかけていく必要があることから、次のような取組を行った。

### (1)「秋田県読書活動推進本部」の設置

- 庁内各部局の共通認識と理解の下で各施策を推進するため、全庁的な推進体制として、知事を本部長とする秋田県読書活動推進本部を、平成25年10月15日に設置した。
- 県の読書活動推進事業実施における連携を図るとともに、第2次秋田県読書活動推進基本計画案を作成するため、関係13課所で構成する秋田県読書活動推進連絡

会を5回開催した。また、第1次基本計画の検証と第2次基本計画案の方向性を定めるため、教育庁生涯学習課、県立図書館、総合政策課で構成するワーキンググループ会議を3回開催した。

## (2) 県子ども読書支援センターにおける支援と活動の充実

- 各市町村への巡回訪問時に、市町村子ども読書支援センターの設置について情報提供したほか、子ども向けテーマパック資料や、学校向け資料の貸出を行った。
  - ・貸出冊数 2,776冊
- 「えほんのへや」で、週1回、子どもの読書に関する相談を行った。
  - ・相談件数 140件
- 子どもの読書推進に携わるボランティア等の技量向上のため、読み聞かせ、ブックトーク研修会等へ、センター員を派遣した。
  - ・研修会開催回数 17回
- 子どもが本と出会う場の環境整備のため、児童会館図書室へ週2回、センター員を派遣し、図書室整備と資料の活用を図った。

## (3) 読書に関する調査の実施

- 県民意識調査において、1日30分以上本を読む人の割合を調査。
  - ・平成27年度 54.4% (前年度比3.5%減)
- 全国学力・学習状況調査及び県学習状況調査により、「読書への関心」「1か月当たりの読書冊数」等を調査。
  - 《平成27年度「読書への関心」が高い割合》
    - ・小学生 86.0% (前年度比0.4%増)
    - ・中学生 79.9% (前年度比0.9%減)
  - 《「1か月当たりの読書冊数」で最多の回答》
    - ・小学生 3～4冊 (前年度と同)
    - ・中学生 1～2冊 (前年度と同)
- 高校2年生を対象に、「読書活動に関する調査」を実施。(H27年4月現在)
  - 《平成27年度「読書への関心」が高い割合》
    - ・高校生 65.1% (前年度比3.3%増)
  - 《「1か月当たりの読書冊数」で最多の回答》
    - ・高校 「1～2冊」(前年度「読まない」)

#### (4) 読書活動推進関係者との意見交換会の開催

- 読書イベントやボランティア研修会等の事業ごとに、参加者アンケートを実施し、意見・感想とともに読書傾向、情報媒体などについて分析を行っている。平成27年度のアンケート回答者は合計244名となっており、平均すると約9割が「良かった」「まあまあ良かった」と回答し、おおむね好評である。アンケート結果は関係機関に提供し、次年度事業に反映させている。

#### (5) 「読書活動推進県民会議（仮称）」の創設

- 秋田県読書活動推進連絡会における検討課題となってきたが、第1次基本計画の成果と課題を検証していく過程で、第2次基本計画案のパブリックコメントを始め、ボランティア、イベント参加者、企業、書店等、読書推進施策に関する様々な県民の意見を聴取するとともに、市町村、教育機関、民間団体等と連携しながら読書活動を推進していることから、新たな組織は創設しないことにした。

また、第2次基本計画の方向性となっている県民生活に根付いた読書活動推進のためには、市町村と県との協働推進体制を更に強化する必要があることから、計画案や読書環境の地域格差等について、市町村教育委員会との意見交換会を実施し、今後も連携して取り組むことを申し合わせた。

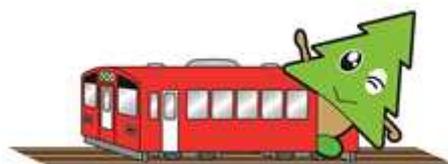


#### (6) 「市町村子ども読書活動推進計画」策定への支援

- 「市町村子ども読書活動推進計画」の未策定2市を訪問し、策定の意義や手順について情報提供を行った。また、2次計画の策定に向けて市町村訪問等により助言を行い、全市町村が策定済となった。

### スギッチリサイクル文庫ステーション

ー あきたの子どもたちに読書の喜びをリレーしていますー



秋田県読書活動推進本部

(秋田県立図書館2F)

## V 「達成すべき目標数値」平成27年度実績

1 達成11目標								第1次計画 達成目標値
項	目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
1	学校図書館図書標準を達成している学校の割合	小学校	調査なし	49.3 %	調査なし	52.7 %	調査なし	50.0 %
2	学校図書館を地域に開放している学校の割合	高等学校	6.8 %	6.8 %	6.9 %	15.7 %	15.8 %	10.0 %
3	読み聞かせボランティア等と連携して、読み聞かせや図書館の運営を実施している学校の割合	小学校	調査なし	83.8 %	調査なし	83.3 %	調査なし	80.0 %
4		特別支援学校	85.0 %	85.0 %	92.3 %	100.0 %	100.0 %	100.0 %
5	全校で取り組む読書活動を実施している学校の割合	小学校	調査なし	99.1 %	調査なし	100.0 %	調査なし	100.0 %
6		中学校	調査なし	99.1 %	調査なし	100.0 %	調査なし	100.0 %
7	子ども読書の日や子ども読書週間における関連事業の実施件数	23市町村	24市町村	25市町村	25市町村	25市町村	25市町村	25市町村
8			124 件	168 件	174 件	150 件	191 件	75 件
9	読書活動の調査で、「読書が好きだ」の設問に「強くそう思う」「そう思う」を回答した児童生徒の割合	小学校	調査なし	79.6 %	79.4 %	85.6 %	86.0 %	80.0 %
10	読書活動に関する調査で、「1月に読んだ本の冊数」の設問で最も多い回答	高等学校	読まない	読まない	1～2 冊	読まない	1～2 冊	1～2 冊
11	子ども読書活動推進計画を策定した市町村数	6市町村	12市町村	18市町村	23市町村	25市町村	25市町村	25市町村
2 未達成21目標								第1次計画 達成目標値
項	目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
1	県立図書館のセカンドスクールの利用学校数	39 校	50 校	54 校	53 校	44 校	46 校	
2	県立図書館のホームページのアクセス件数	194,631 回	216,763 回	232,754 回	246,446 回	265,337 回	300,000 回	
3	県立図書館のレファレンス・サービスの件数	29,931 件	25,364 件	26,582 件	25,270 件	28,309 件	44,000 件	
4	県立図書館の年間貸出冊数	433,561 冊	417,651 冊	412,617 冊	417,213 冊	432,610 冊	450,000 冊	
5	県立図書館の高等学校・特別支援学校図書館への貸出冊数	8,705 冊	8,129 冊	7,904 冊	7,787 冊	8,874 冊	20,000 冊	
6	県人口1人あたりの市町村図書館貸出冊数	2.07 冊	2.12 冊	2.17 冊	2.16 冊	28年7月確定	2.3 冊	
7	学校図書館図書標準を達成している学校の割合	中学校	調査なし	37.8 %	調査なし	46.7 %	調査なし	50.0 %
8	学校図書館を地域に開放している学校の割合	小学校	調査なし	調査なし	調査なし	3.2 %	調査なし	10.0 %
9		中学校	調査なし	調査なし	調査なし	1.7 %	調査なし	10.0 %
10	読み聞かせボランティア等と連携して、読み聞かせや図書館の運営を実施している学校の割合	中学校	調査なし	18.8 %	調査なし	14.4 %	調査なし	20.0 %
11		高等学校	調査なし	9.4 %	調査なし	9.8 %	調査なし	10.0 %
12	全校で取り組む読書活動を実施している学校の割合	高等学校	59.3 %	52.5 %	55.2 %	52.6 %	61.4 %	75.0 %
13		特別支援学校	77.0 %	81.0 %	84.6 %	92.3 %	73.3 %	100.0 %
14	学校図書館を活用した授業を、1学期に数回程度以上計画的に行っている学校の割合	小学校	調査なし	168 件	66.9 %	71.8 %	77.4 %	80.0 %
15		中学校	調査なし	69.2 %	45.0 %	46.8 %	54.2 %	60.0 %
16	読書活動の調査で、「読書が好きだ」の設問に「強くそう思う」「そう思う」を回答した児童生徒の割合	中学校	調査なし	79.0 %	79.8 %	80.8 %	79.9 %	80.0 %
17		高等学校	59.5 %	61.1 %	61.3 %	61.8 %	65.1 %	80.0 %
18	読書活動に関する調査で、「1月に読んだ本の冊数」の設問で最も多い回答	小学校	3～4 冊	11～12 冊				
19		中学校	1～2 冊	5～6 冊				
20	県民意識調査で、県民が本や雑誌、新聞等を1日平均30分以上読む人の割合		58.4 %	55.3 %	54.5 %	57.9 %	54.4 %	(H27年度目標) 70.0 %
21	子ども読書支援センターを設置した市町村数	5市町村	5市町村	5市町村	10市町村	13市町村	25市町村	

※第1次基本計画における未達成指標のうち、第2次基本計画においても「効果測定項目と数値目標」(64項目)に掲げたものについては、目標達成に向けて継続して取り組んでいく。また、他の未達成指標については、県民の読書の傾向を表す基礎データとして引き続き把握することにより、関連施策の検証等に活かしていく。





秋田県マスコット スギッチ